

# ハチ刺され特別警報

## 発令中!!

～7月から10月まではハチの活動が活発です～

令和4年7月、刈払機による草刈作業中、アシナガバチに刺されたことによるアナフィラキシーショックにより死亡労働災害が発生しました。

また、同時期に草刈等の農作業中、ハチに刺されたことによる不休労働災害が立て続けに発生しています。



刈払機による草刈作業においては、黒い服等の着用、香水・整髪料の使用は避けることを徹底しましょう。

また、エピペン（アドレナリン製剤）の常備も検討してください。

ハチ刺され防止対策については、裏面「蜂刺され災害を防ごう！（林業・木材製造業労働災害防止協会）チラシ」を参考としてください。



淡路労働基準監督署

# 蜂刺され災害を防ごう!

—重篤なアレルギー反応のおそれのある作業者はエビペンを携行しましょう—

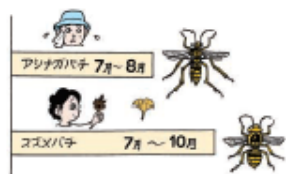
平成20年改正の林業・木材製造業労働災害防止規程では、蜂刺されのおそれのある場所で作業する場合は、あらかじめ蜂アレルギーの検査又は診察を受け、重篤なアレルギー反応を起こすおそれのある作業者は、アドレナリンの自己注射器（エビペン）を携行するよう努めることが決められました。

日本の蜂刺されによる死者数等

区分	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
蜂刺され死者数	30	31	27	34	26	23	24	18	26	20
民有林死者数	0	2	0	0	2	2	3	2	0	2
国有林	1097	1076	619	881	554	343	341	358	376	280
エビペン使用	1	1	5	3	1	1	0	0	3	0

注：国有林は平成7年から導入。それ以降の死者数は、8年に1人、それ以外は0人。

◇ 刺す蜂の中で怖いのは、スズメバチとアシナガバチで、夏から秋がピークで危険です。



◇ 蜂の攻撃の特徴

- \* 巣に接近すると、警戒態勢をとり、威嚇する。
- \* 巣に刺激を加えると、攻撃してくる。

◇ 刺されたときの症状

(局所症状)  
\* 刺された所を中心にその周りに症状が出る。  
(大きく赤い腫れ、痛がゆい)

(全身症状)  
\* 刺された所だけでなく、体中に症状が出る。  
・ 即時に起こる全身症状  
(刺された直後から)  
軽い、中ぐらい、重い、アナフィラキシーショックの症状があります。  
アナフィラキシーショック（即時型アレルギー反応）は大変危険です。  
・ 遅れて起こる全身症状  
(刺されてから翌日以降)



◇ 蜂に刺されないために  
(巣の所在を知っている場合)

- \* 巣に近寄らない。
- \* 巣を刺激したり、震動を与えない。
- \* 巣の近くでは作業をしない。

(巣の所在を知らない場合)

- \* 適切な服装で作業をする。
- \* 防蜂網等（防蜂手袋、防蜂カバーなど）を適用する。
- \* 蜂の殺虫剤スプレーを携行する。
- \* 適切な退避をする。



◇ 蜂の習性をよく知って対処（衣服の色、身なり）

- \* 着衣に注意：黒いものは身につけない。出来るだけ白色系にすること。
- 巣の近くで蜂を怒らせると色には無差別となる。



- \* 体の露出部（腕、手、顔）と動きのある部位が刺されやすい。
- \* においも蜂を刺激し、攻撃の対象となる。ヘアトニック、香水等の化粧品、体臭、汗臭さ等
- \* 蚊よけの超音波発信器も蜂を興奮させて、攻撃を受けることがある。

◇ 刺されたときの処置

- \* 刺された現場から離れ、速やかに毒吸引器等で毒を絞り出す。



- \* 毒の周りを遅くするため、患部を冷水で冷やす。



- \* 刺されたところに、抗ヒスタミン軟膏を塗る。抗ヒスタミン錠剤の処方を受けている人は、服用する。

- \* 発疹、咳、目がくらむなどの症状が出たら、速やかに医療機関に運ぶ。
- \* アナフィラキシーの徴候や症状を感じたときは、エビペンを注射する。



- \* 患者を移送するときは、担架で救命車まで運ぶ。自力歩行させたり、背負ったりしない。



エビペンの必要な人は携行するようにしましょう。

- ※エビペンの使用には、しかるべき医師の診察とその処方が必要です。
- ※林業の作業現場では、救急車が到達するのに多くの時間を要します。
- ※危険な状態になることが見込まれる作業者は、刺されて危険な状態になった場合に、直に対処出来るよう、エビペンを携行しましょう。

